

空室情報

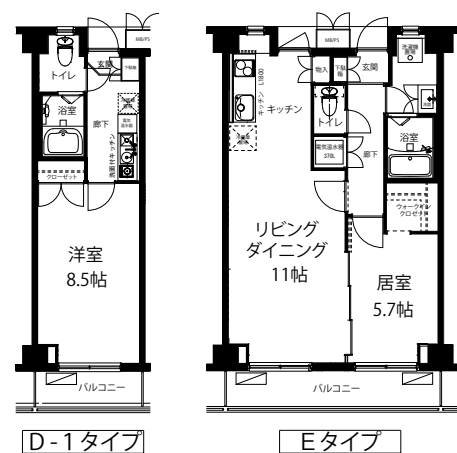
●コレクティブハウス本町田

D1タイプ：25㎡ 59,000円/月（即入居可）
Eタイプ：50㎡ 92,000円/月（即入居可）

所在地：東京都町田市本町田1143-1
最寄駅：小田急線「町田」駅バス6分徒歩3分
または徒歩25分
共用部分：リビング、ダイニングキッチン、
バス、トイレ、庭
構造：RC造 地下1階、地上3階建て
建築年月：1993年3月竣工

2020年3月リニューアルオープン
COMMONスペース：キッチン、リビング、ラウンジ、ゲストルーム、
COMMONバス、ランドリー、多目的ルーム

組合費：6,700円/月
★初期費用割引キャンペーン中！
・敷金2ヶ月のところ無料 ・火災保険料負担なし
・フリーレント1ヶ月



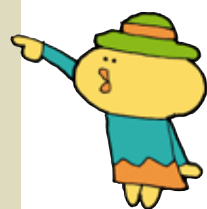
お知らせ

居住者のブログ・FB・インスタグラム

実際の暮らしの様子はコチラから

スガモフラット
<https://blog.goo.ne.jp/sugamos2014/>
<https://www.instagram.com/sugamons212/>
コレクティブハウス聖蹟
<https://www.facebook.com/ch.seiseki/>
コレクティブハウス大泉学園
http://blog.livedoor.jp/ch4_oizumi/
タウンコレクティブ南小岩
<https://www.facebook.com/tc.koiwa/>
https://www.instagram.com/minami_koiwa

その他の空室情報はこちら



Facebookページも公開中！

毎週木曜午後は OPEN DAY

会員のみなさんにお気軽にお越しいただけるよう、毎週木曜午後はオフィスオープンデーとしています。事務局メンバーがおりますので、お話をしながら、関連書籍や資料などもご覧いただけます。近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

※事前に事務局までご一報ください。

TEL: 050-3188-7550 / E-mail: info@chc.or.jp

コレクティブハウス本町田の「買い物奮闘記」

みなさん、コレクティブハウスができる初めてのご存じですか？ 当然、住んでいる方からおわかりかと思いますが、一番最初、COMMONルームにはカーテンもお皿1つもありません。5月当初3名からスタートし、新たに2名が入居した夏頃から手分けして買い物に行くことになりました。

私はキッチンの備品担当になりました。これまで何度か他のハウスのCOMMONルームにお邪魔して、COMMONルームをイメージしながら、他のハウスを参考にリストアップもしていました。しかし、例えば小皿や小鉢といった、お店に行ってみるといろいろな種類があり、どれが使いやすいか、他にもっと使いやすいものはないかと悩んだり、最低限必要なものを買うだけで1日かかり。その後、いざミールをやってみると、あれもこれも足りないとかかり、買い物奮闘記はまだまだ続きます。どうなる買い物！（居住者O）

CHC20歳の誕生日に
オンラインイベントを実施しました（1）

みなさんは、CHCがどのようにして生まれたか知っていますか？「CHCの誕生秘話」と題して、コレクティブハウジング社20歳の誕生日である10/10(土)の夜、オンライン座談会を開催いたしました。

コレクティブハウスの第1号である「かんかん森」から「スガモフラット」、コレクティブハウス聖蹟、大泉学園、元総社やタウンコレクティブにお住いの方など、26名の方にご参加いただきました。20年前から関わり、現在もCHCの役員を務めていただいている、渡邊喜代美さん、宮前真理子さん、狩野三枝さんの3名のゲストを中心に、当時の様子を思い出していただきながら、コレクティブハウジング社の誕生秘話に迫りました。（続く）



「投稿コーナー」投稿募集

「これこれ新聞」では、話題にしてほしい記事を読者の皆様より募集しています。投稿はこちら↓
ペンネームを添えて、collecollego@gmail.comまで。

「これこれ新聞」編集サポーター募集！

これこれ新聞編集部では写真を撮ったり、記事を書いたり、アイデアを出してくださる、サポーターを募集しています。
collecollego@gmail.comまでご連絡ください。

【編集後記】新型コロナの感染拡大で、身近に迫って来ている実感が日々ありますね。対応に追われる毎日の中、どうしたら自分たちにとって良いのか、いつも正解はわかりませんが、相談できる仲間が側にいることが心強いと感じて暮らしています。（編集部員O）



隔月刊
CHC

これこれ新聞

私にとってのコレクティブハウス：

対話とシェアリングから始まる暮らしの創造。
自分の暮らしの一部が他の暮らしとつながることで大小様々な気づきがあります。自分の心持ちやきっかけで生活は豊かにもなり、悩みもあります。ここでの暮らしは暮らすほどに奥深いです。（CH元総社COMMON居住者ST）

コレクティブハウス本町田
新生活、はじめました #2

ガーデニングが意味するもの

私がここ、まちのもり本町田に引っ越したことの1つに、敷地内に思いのほか土の地面が多いことがあげられる。「何のこっちゃ。知ってるけれど、それが何か？」と言う人が大半であろうと思う。しかし、私にとって、土と緑はまさに「癒し」なのである。

それは少し前からのガーデニングブームにハマったからではない。それは遙か昔のおそらく生まれつきとしか言いようがない。母は今思うと、いわゆるグリーンフィンガーの持ち主であった（失礼、まだ存命だ）。緑の指、つまり植物を育てるのがとても上手なのだ。私の実家は一軒家だが、私が小学4年生になるまではこじんまりとしたマンションのこじんまりとしたベランダで母はプランターや鉢で様々な植物を育てていた。しかも苗を買うというよりは、既にあるペコニアやゼラニウムを挿し木して増やしていた。一時期はセントポーリアにハマったのか、室内の窓辺はセントポーリアの鉢だらけだった記憶がある。

それを見て育った私は、自然に植物を育てるのが好きな子供になっていた。当時「学習と科学」という毎月届く教材のようなものがあり、毎月付録が付いてきた。その付録に

へちまと千成ひょうたんの種のセットが付いてきたことがある。私は喜んで小さなプランターに種を蒔いてその成長を見守っていた。芽が出て花が咲き、実が成り、それが少しずつ大きく育つ様子をワクワクしてしながら見ていた日々。それが私の「癒し」の原点である。

ウン十年ぶりにそんな昔のことを思い出したのは、コレクティブハウスの住民でこの夏、ゴーヤとヘチマと琉球朝顔のグリーンカーテンを共同で育てたからだ。日常生活に疲れたとき私を癒してくれるのは、身近な植物をはじめとする自然である。まず無言なのがよい。いや木々を渡る風のざわめきなどは、耳を澄ますと冗舌ですらあると思う。

私はこの土で実の成る花木であったり、ツル性の花だったり、野菜だったりがお互いにお互いを引き立て合う、そんなガーデンを皆で作れたらと願う。それはまさにコレクティブに共鳴する暮らしにも繋がるのではないだろうか？（居住者M）



植物パワーとコーヒーの香りと

それは、ちょっと大きな植木鉢の移動から始まった。朝から屋外での園芸作業を終えた有志の面々、仕上げに館内1階にあったモミノキの鉢を三人がかりで2階に運び上げた。COMMONルーム前の5~6m四方のスペースは自然の光も雨も当たるので木にとってはこっちがいいだろうと考えたのだった。ちなみに関係者から開所のお祝いいただいたモミノキとコニファーたちである。

さて午後になり、再びここで顔を合わせた3人の男子（もっと正確に言えばオジサン）たち。しばし立ち話をすうち、Yさんから「コーヒー飲みませんか？」の提案、アウトドア好きの彼が持って現れたのは、キャンプ用のガスコンロと珈琲豆をミニ鉢ですりつぶす素朴な道具だった。

COMMONルームからテーブル・椅子を持ち出して即席カフェが始まった。通りがかりの人が飛び入りするたびに椅子を追加。一人分ずつ豆を砕いて淹れて注いで出す。メンバーは入れ替わり立ち代わり、次々と話に花が咲いた。COMMON付き賃貸の人など含め10人くらいの人と犬も寄って行ってくれた。

秋の日は落ちるのが早い。とっぴり傾いた夕日が西側の山々（高尾山？）に落ちていく。前日の雨のせいで格別の鮮やかさに息をのむ。じっと見とれる人、スマホで撮る人。

日が沈むと急に気温が下がった。が、カフェは続く。誰かがまっすぐ上を指さした。広がる空に輝く一番星だった。時のたつのを忘れるという通り、いつしか時間が過ぎた。次はナベでもしようかと言いながら解散した。

3階建ての建物の心臓部ともいえる位置にありながら、これまでにはコンクリートの殺風景な「通り過ぎる」だけの場所だった。植物が空間を変えた。つられて人が集った。その活気とコーヒーの香りがさらに人を誘った。けっこう大きな建物に入居者はまだ多くないし、互いの交流が少ないと嘆くことも多い。そんな中ふと実現した、なんとも楽しくてぜいたくな数時間だった。（居住者K）

まちのもりの「もりのいち」開催しました

11/8(日)お天気に恵まれて心地よい空の下、町田で様々な活動をされているみなさんと初のイベント。まちのもりの「もりのいち」開催しました

8月に事務所を目白から町田に移したばかりのCHC、温かいご協力をいただき、ありがたい地域デビューとなりました。当日は、まちのもり本町田・コレクティブハウス本町田居住者、ご近所の方を含む来訪者、スタッフを合わせて60名ほどが楽しみました。

事の発端は…

9月にまちだ自然エネルギー協議会にご協力いただき、子ども向けのソーラーワークショップを開催した折、代表であり双方形を主宰されている清原さんといろいろな話をする中で、「買い物不便な場所なのでせっかくなら町田の野菜の市などここでできないか」という我々のぼやきとつぶやきを拾っていただき、まちだ里のマルシェの増田久美子さんをご紹介いただいたのが9月半ばのことでした。

増田さんからは、町田の農家さんやマルシェを開くことについていろいろ教えていただき、まずはこちらで購入してミニマルシェを開いていただくことになりました。

そうとなれば、町田の魅力をまずは居住者に知ってもらうことから考えて、やはりまちのもりの立派なコモンキッチンを使って、その野菜を食し、町田の農家さんのお話もうかがうのがよさそう、だとすると自家焙煎のコーヒーもほしいね…と、あれよあれよという間に清原さんと増田さんと、頭の中の町田ネットワーク人材バンクからイベント企画の絵柄を組み立てていただきました。そして「もりのいち」というかわいらしい名前も!



当日は…

鬼丸食堂からは、鬼丸美穂さんによるオーガニック野菜を活かしたカレーと副菜2品をランチで、山口陽之助さんによる本場イギリスのクロ

テッドクリームの添えられたスコーンをスイーツで。鬼丸食堂さんは、双方形とイギリス料理の探求イベントなどで協働されていて、チームワークもバッチリ。

まちのもりの居住者のみなさんも、前日の仕込みからお手伝いし、刺激を受けていらっやいました。また、増田さんのアレンジで、バンブービレッジファームにランチ食材の買い出しに。何と、畑から収穫させていただき、鬼丸さん大興奮。

その他、増田さんには柚子胡椒づくりのワークショップを、「マシュマロSENZAI」でおなじみの斉藤さんには、新聞バックをつくるワークショップをやっていただき、琥珀堂の中込仁玲さんにはキッチンカーで自家焙煎コーヒーを販売していただきました。

そして、まちだ自然エネルギー協議会の寺崎さんには、太陽光発電ユニットsoramachiの紹介などをさせていただき、居住者の皆さんも興味深くお話しされたようで、電気自動車のシェアをしたいという話なども出たそうです。太陽光発電で充電できたら良いですよー。

あした農場の渡辺恒雄さんのお話は、ご自身が脱サラで就農されたことに始まり、オーガニック農家を専業で続けていくための仕組み(市民農園での指導や援農)などについてお話しいただきました。短期的視点で経済を回すのではなく、持続的な土地のありように反しないやり方を選択していく生き方は、本当に私たちにとっても大切なことだと思います。

「コレクティブハウス本町田」の見学も13名の方にご参加いただき、東京新聞にも取材していただきました。そして念願のミニマルシェは…、完売しました!

一人ではできないことができる楽しさ、ありがたさ…

まちのもりでの初めてのイベントは、このように多くの方の力と思いを合わせてとても暖かい場となりました。ご近所の皆さんも、チラシを見て訪ねてくださり、とても嬉しかったです。場を提供いただき、受付を一手に引き受けて下さった株式会社コプラスのみなさん、ありがとうございました。そして、コレクティブハウス本町田、まちのもり本町田の居住者のみなさん、今回は企画から共にいかがですか。

CHCの活動 (2020年9月~11月)

<9月>

トピック:
キッズデザイン賞 優秀賞 少子化対策担当大臣賞 受賞!
 9/5,6,13 町田見学会&子どもWS
 9/5 京都の「ねコレクティブ」CHオンライン見学会
 9/26 第1回ハウス間zoom交流会開催 (3p参照)
 9/27 「まちのもり本町田」居住者全体交流会

<10月>

トピック: グッドデザイン賞 受賞!
 10/10 CHC20周年zoom交流会 (4p参照)
 10/22 国際専門職ファッション大学「地域論」講義
 まち「だ」づくりカレッジ参加開始

<11月>

トピック: 「もりのいち」が東京新聞に!
 11/8 まちのもりの「もりのいち」開催 (2P参照)
 11/26 第2回まち「だ」づくりカレッジ参加

しゃべらない楽しみ方? 「サイレント読書会」開催しました

第37号でスガモフラットでのこどもたちとの話し合いについて投稿した居住者Aです。今日はもう1つスガモでの新しい取組をご紹介します。

その名も、サイレント読書会。スガモフラットではコモンミールの開催を見合わせるなど、居住者間の交流機会が減っていました。そんな中ふと、ある人が言ったのです。「コロナで外出もしくいから、読書でもして過ごそうかしら・・・」

そこで思いついちゃいました。「みんなで集まっても、喋らなければ比較的安心かも!」こうしてサイレント読書会を始めました。毎週日曜の夜に希望者がコモンルームに集まって、黙って本を読むだけ(笑)。ちなみにzoomも接続し、画面越しに参加する人もいます。これまでだったら考えられなかったニューノーマルな光景です(笑)。

試しにやってみたところ、日曜のリズムができた、図書館で計画的に本を借りるようになったなど、思った以上の素敵なお意見が! また、他の居住者の読書の好みもわかって面白いです。ある夜には、大人顔負けの速度で読み終える子どもの姿も。これまで知らなかったみなさんの横顔です。

大人になると、意識しないと本を読む機会が減りがちではないでしょうか? 加えてコロナ禍で生活リズムも変則しがちの方も多いこの頃。この原稿を書きながらゆくゆくは他のハウスの居住者もお誘いしてみようかな・・・と、次の展開を画策しています。(居住者A)



9/26(土)、6つのコレクティブハウスをつなぎ 「ハウス間Zoom交流会」開催!

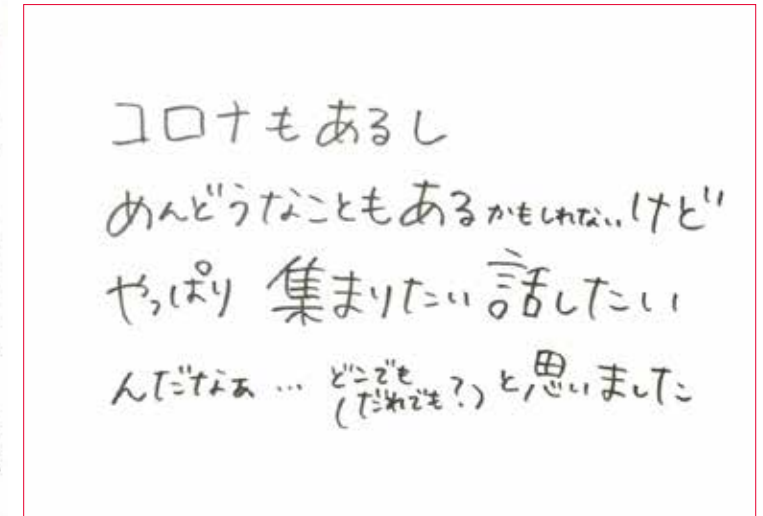
9月26日、コレクティブハウス聖蹟、巢鴨、大泉、町田、南小岩、かんかん森の6つのハウスをつないで総勢25名(CHCメンバー含む)でハウス間ZOOM交流会を実施しました。

コレクティブハウスに住んで3年弱。「人とつながる暮らし」「自分たちで話し合って作っていく暮らし」の良さをもっと多くの人に知ってほしいな〜、もっとコレクティブハウスを盛り上げることが出来ないかな〜と思っていて。そして、せっかくなら、日本にまだ6個しかないコレクティブハウスの人たちがもっと有機的につながって、一緒に活動したり、コレクティブハウスを盛り上げたりすることができたらいいのに、という思いがあり、CHCにも相談の上、企画実施に至りました。

話すテーマは、「ハウスでの子育て」「ハウスと地域のつながり」「ハウスと高齢者の暮らし」「ハウスを引っ越してみようか(OB編)」とか色々案はあったけど、全てのハウスで共通して悩んでいるであろう「コロナ禍のハウス運営」にすることに。そして、お互いのハウスの状況のある程度理解した上で、話し合った方がいいよね、ということで、参加者には「コロナ禍のハウスを表す3つのキーワード」を事前に出してもらおうことになりました。

やっぱり、ミールとか定例会とかコモンスペースの使い方等、悩むことは一緒だね。でも同じテーマであっても、ハウスによって向き合い方は様々。「あ〜なんかうちのハウスは気にしすぎなのかな〜」とか「このハウスの取り組みいいね!」とか、企画を通していろいろ参加者にも気づきが沢山あったみたい。

企画終了後、参加者の一人から、送られてきたメモ(下図)。そうなんだよな〜、コロナ禍でも、いや、コロナ禍だからこそ、人とつながりたい。もちろん交流の仕方は気をつけなきゃいけないけど。コロナ禍だからこそ、そして孤立しがちなこのご時世だからこそ、コレクティブハウスの価値を広めていきたいな〜と思ったのでした。次回も企画しなきゃ、と思いつつ、仕事も忙しくなり億劫になっています(苦笑)。誰かこれを読めるハウスメンバーの方たち、一緒に企画しましょ!(居住者K)



CH大泉学園 居住者Tさんメモ